

成長の年にしていこう

1月7日(火)に始業式が行われました。インフルエンザ等の流行もあり、一部放送での始業式でした。校長先生からは、「蛇は『脱皮』を繰り返して成長をします。巳年の今年、成長の年にしていこう。」とのお話がありました。3年生はいよいよ受験本番を迎えようとしています。2年生も受験対策の新研究が始まりました。1年生は、今年の中堅学年となる年です。自分自身を再生させ、一歩前へ一歩前へと前進していきたいですね。



保護者や地域の皆様方には、本校の教育活動に深いご理解とご協力をいただき、心より感謝しております。今年も引き続き、教職員一同力を合わせて「生徒一人一人の健やかな成長」と「保護者・地域の皆様方に信頼される学校づくり」のために、努力してまいりますので、昨年同様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



表彰披露



第25回ユネスコ「わたしの町のたからもの」	入選	野口 ゆうひ
令和6年度献血ポスターコンクール	金賞 多田 菜那、	入選 鍋木 理絵
令和6年度明るい選挙ポスターコンクール 中学校の部	銀賞 多田 菜那	
第12回ミツバチの1枚画コンクール	奨励賞	山本 理人
石川県アンサンブルコンテスト	銀賞 米田 芽衣、寺師 あかね、藤本 萌衣	
	館 来実、重本 心美、高田 泰士、山田 東子	
令和6年度中学生の「税についての作文」	金沢地区納税貯蓄組合連合会優秀賞	杉山 杏奈



学校公開期間のお知らせ

2月12日(水)から14日(金)までを2月の学校公開期間とします。1限から6限までご自由にご覧いただけます。保護者限定の公開ですので、職員玄関でインターホンを押していただき、学年、組、生徒氏名をお伝えください。詳細は後日 tetoru でお知らせします。

ご都合をつけて是非、学校での様子を参観いただければ幸いです。



1月の目標

生活目標：決意を新たに、最後までやり抜く強い意志を持つ

【重点目標】自分の目標に向けて努力しよう

学習目標：事前の準備を確実にし、「静寂の鐘」を聞いて気持ちを切り替え授業に臨もう

今年の正月三が日は比較的穏やかな日ではなかったでしょうか?とは言え、能登の震災・奥能登豪雨の影響からまだ避難所で生活している方もいらっしゃる状況で穏やかとは言えないのも複雑な気持ちですが・・・引き続き自分たちにできる復興のお手伝いをしていこうと思う次第です。

私の三が日の楽しみは2日・3日に開催される箱根駅伝の中継を見ることです。毎年、学生の奮闘ぶりに感動をもらい、共感もしながら1区～10区まで全部見えています。そもそも来年のシード10校もトップテンが握るため、熾烈な戦いが繰り広げられるので、見ている方も身を乗り出してしまいます。今年は激戦で混戦になる予想を多く聞きましたが、またもや「青山学院大の優勝」。過去11回の内、8回の優勝にはどんな裏付けがあるのか、とても興味のあるところです。原監督は毎年「〇〇大作戦」などとややふざけたようなネーミングの作戦をメディアに向け、配信し話題となっていますが、それも作戦通り優勝させてしまうと驚かされてしまいます。当然伝統校の意地はあるとは思いますが、いつも駒沢大は屈辱を今年こそと思い今まで努力してきたはず。だから上位には必ずといって良いほど食い込んでくる。しかし、今年の前哨戦である出雲全日本大学選学駅伝、全日本大学駅伝は国学院大が制し、箱根での3冠を目指していたが……

また11位のチームにとっては、10位との大きな違いはシード権を逃し、予選会からタイムレースを勝ち抜く必要があるため、ハーフマラソンのコースを一斉に走り、各校上位10名の合計タイムにより、10チームを決定することになっています。予選会では、走り終わっても予選を通過したか否かは分からず、結果発表の場で関東学生競技連盟の幹事長が通過校を読み上げ発表されます。過去には数秒の差で本選出場を逃す大学もあり、毎年数多くのドラマが生まれるため、予選会にも数多くの箱根ファンが詰め掛けるそうです。

私なりの情報で不確かなところはお許し願いたいですが、1区から10区までの10名と補欠枠6名の区間エントリーを行うことになっているようで、補欠枠は本来、大会直前の怪我や体調を崩す選手が出た場合に備えたものですが、チームによっては戦略的に使う場合があると。そのため、各校の監督はぎりぎりまで頭を悩ませ、選手の体調を見ながら、最終オーダーを決めるそうです。もしかすると原監督には直前のオーダー変更や選手をその気にさせる言葉など「人(心技体)を見抜く力・最大限のパフォーマンスを引き出す力」があるのかもしれません。またそれに応える選手も素晴らしいと思います。駅伝をする選手にとっては、「襷は命より大切」と聞いたことがあります。走る選手、それを支える学生、1年生だろうが4年生だろうが、勝つための選手を選ぶ事に徹しているだろうし、一度も箱根路を走れなかった選手は例え青山学院であれ、駒沢大であれいるはず。学生もきつとわかっている。選手として走れなくとも応援、給水、タイム計測等、自分のチームの優勝、襷を一秒でも早く次につなげるための努力を個々にしているだろう。もっと言うと、日常生活の中でも、チームの中で元気を出す役、叱る役、励ます役、ケンカの仲裁役など、なんとしてもチームとしての力を発揮するために、自分が変な意味犠牲になってもと日々生活しているのではないかと思う。この箱根に出場するだけでもとても大変なことで、名誉なこと。襷を1位から20分の間につなげなければ繰り上げスタートとなる。つなぎきれなかった選手の泣き崩れる姿を数多く見てきた。努力してきたものの悔し涙、そして勝ったときのうれし涙に魅了される。来年はどんな走りを見せてくれるのか楽しみである。きっともう戦いは始まっているのだろう。

